



ボリウムも美味しさも満点だったホテルの朝食。3種あり。



元の浄教寺の屋根を支えた虹梁にあった木鼻をロビーの装飾に



日本、美しい弥勒菩薩像と会える大秦広隆寺。画像は検索で。



玄武神社。北方を守護する水神の玄武。長寿の亀と繁殖の蛇が一体。



蚕ノ社の奥にある三柱の鳥居。

暮らす旅 京都 京都を守る四神

文・写真／松岡伸吾（暮らす旅舎）

京都の六月といえば夏越の祓え。茅の輪をややくしくぐって、無事に半年過ごせたことへの感謝と残る半年への安寧を祈願する。さらに三角形の水に見立てたういろうや葛に小豆をのせた和菓子「水無月」をいただけば完璧だ。

だいぶ旅行者が戻った京都。宿泊したのは寺町四条に昨年秋、50年の歴史を持つ浄教寺と三井ガーデンホテルが共同開発したホテル。建物の一部に伽藍が再建され、167室の客室と大浴場もある。

1階ロビーにはかつての本堂にあった木彫や柱が、歴史を伝えるアートとして展示され、新しい本堂もガラス窓越しに見える。しかも宿泊者は朝のお勤めに参加できる。平重盛ゆかりの堂内も見学できる。「次世代に向けた寺のホテル」というコンセプトは、密集市街地にある寺社にとって、未来を賭けた選択だったのだろう。

朝のお勤めの後の朝食は、ミシユ

ランにも掲載された福岡の僧伽小野一秀庵の県外初出店というレストランでいただく。ビュッフェスタイルよりもずっと満足できた。

お茶の稽古と仕事の打ち合わせが主な目的だったが、コロナ終息を願い寺社も巡ってきた。船岡山に近い玄武神社には蛇が巻きついた亀の像が置かれていた。白虎に当たる嵐電沿いの蚕ノ社と共に、京都四神を祀る知る人ぞ知るマニアックな神社だ。養蚕の技術に優れた秦氏が建立した蚕ノ社には、三柱の鳥居があり、ミステリアスポットとして人気があるそうだ。

続いて向かったのは大秦広隆寺。秦河勝が聖徳太子から賜った弥勒菩薩像を本尊として603年に建てた京都最古の寺だ。仏像としての美しさは別格で、何度も見ているが飽きることがない。新型コロナ前では考えられない静かな堂内でひとときを過ごせた。今回は蒼龍と朱雀も回らねば。